

# ES/1 NEO

MFシリーズ

## V05L21R2

# Release News Letter

## XSPシステム

### 目次

#### 【お知らせ】

ES/1 NEO MFシリーズのサポートについて  
PC製品 サポート終了のお知らせ

#### 【HOST】

資源使用量比較一覧	
リリースニュースレター機能一覧 プロセッサ別	… 1
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	… 2
MF-MAGIC	… 3

#### 【PC】

リリースニュースレター機能一覧 プログラム別	… 4
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	… 5
Performance Navigator	… 6

 株式会社 アイ・アイ・エム

本リリースニュースレターは、V05L21R2 のリリース内容をまとめたものです。過去のリリース内容につきましては、プロダクトメディア(x:¥Rn1)内のレターをご参照ください。

# 改版履歴

---

---

日付	版数	内容
2022/2/1	1	V5L21R2 リリース

# ES/1 NEO MF シリーズのサポートについて

各バージョンの通常サポート期間はリリースより 30 ヶ月間です。

バージョンはバージョン、レベル、リビジョンからなり、レベルを基準とします。後継リビジョンのリリースに伴い、旧リビジョンのサポートは延長されます。



図. 製品ライフサイクルのイメージ

<バージョン（バージョン・レベル・リビジョン）の確認方法>

ES/1 実行ログにて確認できます。

例) V05L21R2 の場合

**V 0 5 L 2 1 R 2**

バージョン レベル リビジョン

```
LICENSEE ----- TRIAL USER
EXPIRATION DATE ----- 2022/5/31
VERSION/LEVEL/REVISION ---- 05. 21. 02
```

<今後のサポート予定>

今後のサポート期間について、お知らせします。

バージョン	リリース時期	サポート終了予定時期
V05L21R2	2022年2月	2024年8月
V05L21R1	2021年10月	2024年8月
V05L20R3	2020年11月	2023年5月
V05L20R2	2019年11月	2023年5月
V05L20R1	2019年3月	2023年5月

<通常サポート中とサポート終了後の違い>

サポート終了後のバージョンも継続してご利用いただけます。

但し、不具合に対応した修正パッチは、最新リリースまたはサポート期間中のバージョンに対してのみの提供となります。サポート終了後のバージョンをご利用中に発生した不具合の対応については、原則として最新バージョンに対応した修正パッチを提供させていただきます。

	サポート期間中	サポート終了後
当該バージョンの継続使用	可	可
製品の使用方法に関するご質問	可	可
不具合発生時の調査	可	可※
不具合修正パッチの提供	可	不可

※ナレッジベースでの調査となります。

<バージョンアップのお願い>

通常サポート期間を終了したバージョンについては、限定的なサポートのみの提供となります。最新バージョンへのバージョンアップのご検討をお願いいたします。

以上

# PC製品 サポート終了のお知らせ

現在、MF-eASSIST でサポートしています次のアプリケーションを、2022 年 7 月 31 日にてサポート終了とさせていただきます。

## <サポート終了アプリケーション>

Internet Explorer 8~11

V05L21R2 では、MF-eASSIST の対象環境は次の通りとなります。

## <オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® 8.1

Microsoft® Windows® Server 2012

Microsoft® Windows® Server 2012 R2

Microsoft® Windows® 10

Microsoft® Windows® Server 2016

Microsoft® Windows® Server 2019

Microsoft® Windows® Server 2022

## <アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013

Microsoft® Excel2016 / Word2016

Microsoft® Excel2019 / Word2019

Microsoft® Excel2021 / Word2021

Microsoft® 365 Apps (Office®365)

Internet Explorer 8~11 (※2022 年 7 月 31 日まで)

Windows Edge

Google Chrome

.NET Framework 4.5.2 以上

以上

## ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R2 資源使用量比較一覧

本資料は、ES/1 NEO MFシリーズ V05L21R2 と、以前のリリース (V05L21R1) との資源使用量比較一覧です。  
各項目の意味は以下の通りです。

CPU		以前のリリースと比較し、CPU時間が1割以上増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。
STG	本体	以前のリリースと比較し、使用仮想記憶域が増加した量を示します。 この結果は、入力されるデータには関係ありません。
	データ	以前のリリースと比較し、上記本体の増分以上に使用仮想記憶域が増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。

		V05L21R1 vs V05L21R2		
		CPU	STG	
			本体 (KB)	データ
MF-XSP	CPECNVRT	—	0	—
	CPEXSPCV	—	0	—
	CPEPRT00	—	0	—
	AIMPRT00	—	0	—
	AIMTRCO0	—	0	—
	JOBDSNO0	—	0	—
	HIBICHKO	—	0	—
	AVMPRT00	—	0	—
MF-MAGIC for XSP	CPEDBAMS	—	0	—
	BOXSYS00	—	0	—
	BOXAIM00	—	0	—
MF-SCOPE for XSP	JOBEXE00	—	0	—
	JOBTRCO0	—	0	—
	JOBGRPO0	—	0	—
	JOBXSPMO	—	0	—
	JOBRDB00	—	0	—
MFシリーズ 支援ライブラリ	CPEDASDO	—	0	—
	PAGPRT00	—	0	—
MF-eASSIST	PNAVICEC	—	0	—
	PNJOBXSP	—	0	—
	PNAVIVSP	—	0	—

※本体の使用仮想記憶域の増加が大きい場合、該当の箇所の色を付けて表示します。

例.	MF-XSP	CPEPRT00	—	124	—
		AIMPRT00	—	4	—

- 注意：(1) 本資料は弊社環境 (IBM環境) での結果に基づいています。環境により異なる場合がありますので、参考資料としてください。  
(2) 実行時に仮想記憶領域不足が発生する場合、OVER16機能をご使用ください。  
(3) CPECNVRTへの先行更新をCPEXSPCVにも反映した為、CPEXSPCV本体の使用量が増加しました。

【OVER16機能 指定方法】実行するプロセッサのJCLに次のような指定を追加してください。  
REGIONサイズの指定は、お客様の環境に応じて変更してください。

¥CPESHELL EX CPESHELL, RSIZE=64M, OPT=DUMP	<=追加・変更
¥PRGLIB FD PRGLIB=DA, FILE=CPE.LOAD	
¥SYSRINT FD SYSRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(5, 1), SOUT=OUTCLASS	
¥PARA PARM	<=追加
¥CPEPARM FD CPEPARM=*	<=追加
OVER16=CONVERTWORK	<=追加
OSTYPE=XSP	<=追加

OVER16機能の詳細につきましては「ES/1 NEO MFシリーズ 使用者の手引き 共通編 (IBM / 富士通 / 日立システム)」  
'3.3.2 OVER16機能' をご参照ください。

既存プロセッサ

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-MAGIC	CPEDBAMS	不具合	1	インターバル変更後のタイムスタンプに誤り		●				3	521-041
		不具合	2	インターバル変更後に異常値		●				3	521-042

◇表項目の説明

- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

既存プロセッサ

不具合一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-MAGIC	CPEDBAMS	不具合	1	インターバル変更後のタイムスタンプに誤り		●				3	521-041
		不具合	2	インターバル変更後に異常値		●				3	521-042

◇表項目の説明

- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

# MF-MAGIC

## CPEDBAMS

### 521-041. インターバル変更後のタイムスタンプに誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	●	—	—	

#### 【現象】

次の ES/1 レコードタイプをインターバル変更した場合、集計対象の最初のインターバル(開始時刻)をタイムスタンプとしてセットすべきところ、最終インターバル(最終時刻)をセットしていました。

<対象レコードタイプ>

レコードタイプ	説明
198.1	AIM メッセージ処理状況
198.2	AIM エクステント排他状況
198.3	AIM DTPF 状況
198.4	AIM DTPF 詳細状況
198.5	AIM DTPF メッセージ送信処理状況
198.60	拡張物理チャンネル情報
199	AIM システム稼働状況

#### 【原因】

インターバル集計して出力する際に、最終インターバルを出力レコードのタイムスタンプにセットしていました。

#### 【対処】

プログラムを修正し、最初のインターバルを出力レコードのタイムスタンプにセットするようにしました。

### 521-042. インターバル変更後に異常値

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	●	—	—	

#### 【現象】

ES/1 レコードタイプ 198 サブタイプ 1 をインターバル変更した場合、一部のシンボルに異常値がセットされていました。

<対象項目>

シンボル	説明
MAXMSGCT	最大処理トランザクション数
MAXMSGTM	最大処理トランザクション数を検出した時刻 (通算秒数)

#### 【原因】

プログラム処理にてインターバル変更処理を誤っており、異常値がセットされていました。

#### 【対処】

プログラムを修正し、正しい値で出力するようにしました。



ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 プログラム別

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365 Apps環境への対応	6	521-050
	拡張	2	Microsoft® Windows® Server 2022への対応	6	521-051
	拡張	3	Microsoft® Office 2021への対応	6	521-052
	拡張	4	Microsoft® Office製品の使用を最小限にするオプションを拡充	7	521-053
	変更	5	一部動作のデフォルト値を変更	8	521-056

## ES/1 NEO MFシリーズ【PC】リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別

### 拡張一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365 Apps環境への対応	6	521-050
	拡張	2	Microsoft® Windows® Server 2022への対応	6	521-051
	拡張	3	Microsoft® Office 2021への対応	6	521-052
	拡張	4	Microsoft® Office製品の使用を最小限にするオプションを拡充	7	521-053

### 変更一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	変更	1	一部動作のデフォルト値を変更	8	521-056

## Performance Navigator(拡張)

### 521-050. Microsoft®365 Apps 環境への対応

Microsoft®365 Apps (旧名 : Office®365)に対応しました。対象となる更新チャンネルは次の通りです。

<更新チャンネル>

チャンネル	バージョン	ビルド	サービス開始日
半期エンタープライズチャンネル	2102	13801.21004	2021/07/13

### 521-051. Microsoft® Windows® Server 2022 への対応

Microsoft® Windows® Server 2022に対応しました。

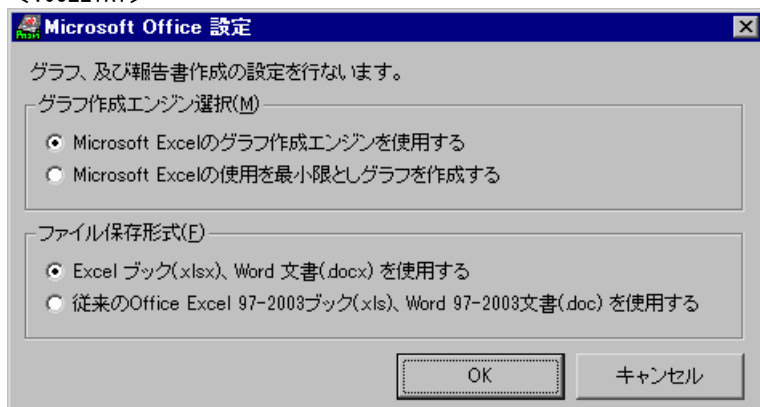
### 521-052. Microsoft® Office 2021 への対応

Microsoft® Office2021に対応しました。

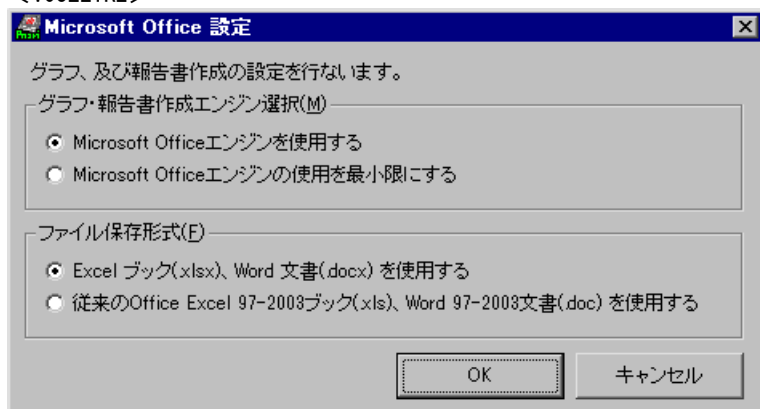
## 521-053. Microsoft® Office 製品の使用を最小限にするオプションを拡充

Microsoft® Excel だけでなく Microsoft® Word の使用も最小限にできるように拡充しました。この拡充に伴い、GUI の文章を変更しました。『Microsoft Office エンジンの使用を最小限にする』を選択した場合、WORD 文書にグラフを貼り付ける処理で別アプリケーションを使用します。それに伴い、報告書貼り付け時のログファイルを新規に出力します。

<V05L21R1>



<V05L21R2>



### 【新規出力されるログファイル】

- ・ x:\¥IIM¥MF¥Pnavi¥PasteToWord.log

### 【注意/制限事項】

- ・ V05L21R1 で『Microsoft Excel の使用を最小限』を選択していた状態でバージョンアップした場合、貼り付け方法の変更により DOC 形式の報告書の見栄えが変化します。
- ・ V05L21R2 で『Microsoft Office の使用を最小限』を選択した場合、HTML 形式の報告書は作成できません。ただし PWS グラフと連携用インデックス (PHIndexR.txt) は正常に作成できます。

## Performance Navigator(変更)

### 521-056. 一部動作のデフォルト値を変更

一部動作の設定選択のデフォルト値を変更しました。

この変更に伴う従来の WORD 報告書作成処理には影響ありません。

動作	変更前	変更後
PWS 連携をする or しない	しない	する
PWS 連携用インデックス (PHIndexR. txt) を作るタイミング	報告書作成時	グラフ作成時